

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》原 文宏（非常勤講師）

【概 要】

この科目は、科学技術の表裏、科学技術による人間の態度や行動の変化、科学技術を使う人間の危うさなどを学び、科学技術と人間の関係を考えることを通して、現代社会における心理科学の重要性と可能性を知る。

【学習目標】

全体目標

- ・科学的思想の誕生と科学技術が人間の生活を豊かにしてきた歴史を理解するとともに、地球温暖化や公害、交通事故、原子力発電所の事故、携帯電話による犯罪等の事例をもとに科学技術の表裏と人間の態度や行動の関係について考える。
- ・科学技術の発達とともに、現代社会の中で顕著になっている科学技術とリスクや社会的ジレンマ等の問題について、事例を基に科学技術に頼った問題解決の難しさと、問題の緩和や解決に向けた、人間の態度や行動の重要性について考える。
- ・リスク、社会的ジレンマ問題への心理科学的なアプローチについて、防災、交通問題や環境問題等を事例に、コミュニケーションを中心とした問題の解決、緩和手法、効果等について具体的に学び、心理科学の重要性を理解する。

個別目標

- ・人類の環境適応の歴史と科学技術の関連について時間軸の中で対比し、人類が生理的適応と技術による社会的適応によって自然環境を克服してきた時代から、科学技術によって造られた人工環境に無意識に生理的適応している現代社会の脆弱な面について理解する。
- ・現在の科学技術である、いわゆる西洋近代科学について、思想的な背景と宗教や芸術との関係、その後の産業革命にいたる歴史を概観し、西洋近代科学の限界や、顕在化しつつある生命科学やAIによる人間の存在に関する懸念について考える。
- ・科学技術による解決が難しい社会問題が増加している背景と、その社会問題を顕在化させている原因も科学技術であることを学び、問題の解決や緩和に求められる心理科学的なアプローチの重要性について理解する。
- ・科学技術と人間の関係で社会問題となっているヒューマンエラー、リスク、社会的ジレンマの概要と態度行動変容手法（教育や心理科学的アプローチ）の基礎を学び、具体的な社会問題への応用について事例を基に理解する。
- ・リスク問題の合意形成、教育及びリスク・コミュニケーションの知識とともに、防災教育手法であるクロスロード（災害対応ゲーム）、DIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）等の防災ゲームについて学習する。
- ・社会的ジレンマと科学技術の関係について学習するとともに、人間の態度行動変容問題であることを理解する。社会的ジレンマに関する具体的な問題テーマを設定して、問題に関する調査、分析、心理科学的なアプローチによる解決手法をシュミレーションし、レポートとして作成する。
- ・社会的ジレンマ総合演習におけるレポート作成と議論を通して、調査手法、レポートの書き方、発表の仕方、発表ツールの作成方法等を習得する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	講義内容の説明	講義の目的、スケジュール、学習方法、評価方法についての説明。また、「技術と人間」の問題を心理科学部で学ぶ意味について考える。	原 文宏
2	人類の環境適応と技術	人類が世界中に拡散するなかで、様々に行われた環境適応について、寒冷環境への適応技術を事例に交通、都市、産業、生活などの面から学習する。	原 文宏
3	科学と宗教・芸術	科学思想の系譜と、キリスト教との関係やルネッサンスを経て産業革命にいたる科学・技術史を概観し、科学技術の発達によって我々の生活や社会経済体制がどのように変化したかを学習する。	原 文宏
4	現代社会と科学技術	現代社会では、科学技術の中でも、生命科学やAIが急速に発展する中で、遺伝子操作やロボット化による身体や脳の外部化によって「人」の存在が問われる状況まで生まれている現状を学習する。	原 文宏
5	科学技術とリスク	科学技術に内包されるリスク（危険）について、様々な事例（自然災害、交通、航空機、原子力発電所等）をもとに、リスクの要因や、経済活動との関係について学習する。	原 文宏
6	科学技術と社会的ジレンマ	交通や環境問題を事例に、社会的ジレンマと科学技術の関係について学習するとともに、人間の態度行動変	原 文宏

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		容問題であることを理解する。	
7	態度行動変容の理論と基礎	態度行動変容に関わる理論（規範活性化理論等）及び、コミュニケーション理論（恐怖喚起コミュニケーション等）の基礎を学ぶ。	原 文宏
8	コミュニケーションによる態度行動変容	「ことば」によるコミュニケーションを用いて態度行動変容を促す心理的方略について、環境や交通問題への適応事例から学習する。	原 文宏
9	態度行動変容の理論と応用	態度行動変容の理論を使った、社会的ジレンマ問題以外のリスク問題等への応用について、学習する。	原 文宏
10	態度行動変容に関する調査及びレポート作成の基礎	社会的ジレンマに関する調査（質問紙の作成、調査の実施、集計、グラフ化等）及びレポート作成までの基本的なフローと基礎知識を学習する。	原 文宏
11	態度行動変容の促すためのツールや手法及び全体の復習	規範活性化理論をもとに、態度行動変容を促すための手法、そのために使用するツールの特徴や効果について学習する。（学習成果の確認試験を実施）	原 文宏
12	災害リスクマネジメントと態度行動変容	リスク問題の合意形成、教育及びリスク・コミュニケーションの基礎と、特に自然災害及び複合災害を中心にリスク・マネジメントについて学習する。	原 文宏
13	社会的ジレンマ総合演習（レポートテーマの設定）	身近にある社会的ジレンマ問題を調査し、その問題の背景や、その問題に内包されている社会的ジレンマの構造について明らかにする。（レポートテーマを設定する。）	原 文宏
14	社会的ジレンマ総合演習（アンケート調査の実施）	設定した社会的ジレンマ問題について、規範活性化理論の各段階を考慮した質問紙を作成し、質問紙によるアンケート調査を実施、集計及びグラフ化し、調査結果のまとめを行う。	原 文宏
15	社会的ジレンマ総合演習（レポート作成）	設定した社会的ジレンマ問題について、問題の背景、概要、アンケート調査結果等を踏まえて、問題の解決や緩和を促すための態度行動変容の手法やツールを具体的に提案し、レポートとしてまとめる	原 文宏

【評価方法】

学習態度（40%）試験（30%）レポート（30%）による総合評価

【備 考】

参考書：「社会的ジレンマの処方箋」藤井聡著（ナカニシヤ出版）
「心理学が描くリスクの世界」広田すみれ、増田真也、坂上貴之（慶応義塾大学出版会）
「防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション」矢守克也、吉川肇子、綱代剛（ナカニシヤ出版）

【学習の準備】

- ・毎回、次回の講義のポイントを連絡するので、そのことについて予習を行うこと。（80分程度）
- ・毎回、授業後に、復習用の課題を出すので、次の授業前に提出すること。（80分程度）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

現在の私たちの社会経済活動や日常生活は、科学技術の上に立脚しているといっても過言ではなく、科学技術が人間の心にも強い影響を与え、個人にも、社会にも様々な問題を顕在化させている。このような科学技術と人間の関係の中で発生する様々な心の問題について、幅広い知識と、解決に向けた心理科学的アプローチに関する基礎的な技能を身につける。